

国語

(制限時間 五〇分)

注意 一、問題は 一 から 二 まであり、六ページまで印刷してあります。

二、答えはすべて別紙の解答用紙に書きなさい。

三、問いのうち、「…選びなさい。」と示されているものについては、ア、イ、ウ…等の記号で答えなさい。

また、本文の中からぬき出す場合は、句読点や「」等の符号も一字として数えなさい。

四、本文中の\*は、本文の後ろに意味の説明があるという印です。

一

動物とのふれあいを通して人間の健康を育もうとする「アニマル・セラピー」の研究を続けている筆者(精神科医)が書いた次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

具体的にはペットからどういった効果もたらされるのでしょうか？

私は三つに分けて考えるのがわかりやすいと考えています。

まずは「心に及ぼす効果」です。ペットと暮らしていると元気が出たり、何かしようとする気がわいてきたり、思わず笑ったりします。さらに一緒にいて頭をなでているだけでリラックスします。無条件に愛情を示してくれるため、私たちの自尊心や<sup>①</sup>有用感が増します。

次に「体に及ぼす効果」です。ペットと暮らしていると、自然と体を動かすことが多くなります。犬の散歩は言うまでもなく、餌<sup>えさ</sup>を買いに行ったり、糞<sup>ふん</sup>の掃除<sup>そうじ</sup>をしたりしなくてはなりません。また心に及ぼす効果は体にも効果をもたらします。リラックスした心は、病気に打ち勝つ力の一つとなりえるのです。

最後に「<sup>②</sup>人間関係に及ぼす効果」です。ペットがあいだに入ることによって、相手がいい人に見え、話しやすくなります。またペットとの言葉を使わないつながりは、特に子供において言葉以外のコミュニケーションの練習にもなります。

この三つの利点が無理なくおだやかに私たちを満たすこと、それがアニマル・セラピーの効果なのです。

「<sup>③</sup>これらの効果を利用して、動物を用いて人間の健康に寄与<sup>よ</sup>する」ことがアニマル・セラピーと言えますし、I

たとえばバード・ウォッチングをして気持ちよくなったとしたら、それは一種のアニマル・セラピーと言えます。なぜなら私たちの心のなかで、「鳥を見ること」で何らかの変化が起こっているからです。

ただ、もっと積極的に動物を医療に取り入れていこうという流れがあり、それを現在日本ではアニマル・セラピーと呼んでいます。それには大きく分けて二つあります。

それは、AAA(アニマル・アシステッド・アクティビティ<sup>\*</sup>動物介在活動)と、AAT(アニマル・アシステッド・セラピー<sup>④</sup>動物介在療法)です。この二つは似ているようで大きく異なっています。

まず、AAAは「ふれあい活動」だと考えてください。たとえば、ペットを連れて来た人たちが老人ホームなどの施設に行き、老人にペットとふれあってもらう——これがAAAです。一種のレクリエーションをイメージしてもいいと思います。

AAAはそれと少し異なります。「セラピー」は「治療」であり、医療的補助行為をイメージしてください。アトピー<sup>⑤</sup>ウとなる患者に、どのぐらいの回数や時間でふれあわせるか、どのぐらいの期間にわたってふれあわせるか、何を目標とするか、などを医療関係者とともに計画し、記録を残し評価をします。

特に使える診療科として私が考えているのは、リハビリテーション科、精神科、小児科、そして高齢者医療です。そして用い方としては、「診断」「治療」「<sup>⑥</sup>予防」に分けて考えるとわかりやすいでしょう。

まず「診断」ですが、たとえば動物を目の前においても興味を全く示さない子供、また手荒く扱って平気な子供は、何らかの心のかたまりがある可能性が高いと思われれます。普段の診療現場で出てこないそれらの症状が、動物を介在すること

によって発見できることが往々にしてあります。

さらに「治療」ですが、動物を通して相手の立場に立ったものの考え方ができるようになったり、言葉以外のコミュニケーションを育てる練習になったり、責任感を育む一要素となったりします。また、たとえばリハビリテーションなどにおいて、動物が治療につきあってくれたら、「やる気」「楽しさ」が出てきます。

B 最後に「予防」ですが、病院や老人ホームなど、隔離された空間に入るといことは、さまざまなストレスを生み出し、それが積もり積もると、心だけでなく身体にも悪影響が出てくることが多いのです。動物とのふれあいは、刺激とリラック感を生み出し、また孤独をなくしストレスの出現を緩和することができると言えます。

これらをさまざまな場面において応用していくのがこの分野であり、また面白さなのです。この分野に関わるには、一つだけ大切なことがあります。

それは、アニマル・セラピーに「生きたものが関わっている」ということです。生きたもの、II 動物は生きているからこそ私たちにポジティブな効果を及ぼします。しかし、生きているがゆえに、いろいろなストレスを受け受けます。逆に、ストレスを受けるような存在だからこそ私たちに効く、とも言えます。

ですから、アニマル・セラピーに関わる際には、私たちは常に動物のストレスに気を配らなくてはなりません。ストレスを受けている動物からセラピー効果は望めません。事故などの恐れが出てきます。

また、動物の受けるストレス、ということから、動物の福祉のことを考える必要があります。

特に日本においては、捨て犬や捨て猫が保健所で大量に処分され、ある種類のペットが簡単にブームになり、一部のペットショップでは動物を思わず衝動買いしたくなるような売り方をしていたりします。これは、「日本人」のペットの飼い主の心をイハンエイしているとも言えます。

⑥ このようなペットに対する考え方を持っている一方で、動物から恩恵を得よう、というのは間違っています。特に日本人は、歴史的に見ても、動物のことをあまり考えないできた民族と言えます。つきあかたを知らず、下手なのです。

逆のことも言えます。ペットが単なる愛玩動物ではなく、私たちのなかに大きな健康的な影響を与えているということをみんなが知識として持つことができれば、まわりにいる動物たちへの見方も変わってくるでしょうし、そうになると、動物たちの地位が向上し、III も整備され、回りまわってアニマル・セラピーがもっとやりやすい環境になっていくのです。

(横山章光「ペットがくれる効果 アニマル・セラピー」より)

※ 問題作成の都合上、本文を一部省略しています。

【語注】

寄与 Ⅱ 役立つこと。 介在 Ⅱ 両者の間にはさまって存在すること。ここでは、動物が「かわる」という意味。往々にして Ⅱ しばしば。 緩和 Ⅱ やわらげること。 ポジティブ Ⅱ 積極的な。 福祉 Ⅱ 幸福。

問一 線部ア・イのカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 線部A「自然と」はどこに係っていきますか。最適なものを次から選びなさい。

ア 暮らしていると イ 体を ウ 動かすことが エ 多くなります

問三 線部B「最後」と同じ組み立ての熟語を次から一つ選びなさい。

ア 存在 イ 必要 ウ 天地 エ 無理 オ 変化

問四 線部C「受けます」の主語を本文中からぬき出しなさい。

問五 I・II にあてはまる言葉の組み合わせとして最適なものを次から選びなさい。

ア そこで Ⅰ さらに イ さらに Ⅱ ですから  
ウ ですから Ⅰ すなわち エ すなわち Ⅱ たとえば  
オ たとえば Ⅰ そこで

問六 — 線部①「有用感」のここの意味として最適なものを次から選びなさい。

ア ペットは人の健康を回復させると信じる気持ち。

イ ペットの存在は人にとって重要だと思ふ気持ち。

ウ 自分自身を大切にすると必要があると思ふ気持ち。

エ 自分は、必要とされる存在だと実感する気持ち。

オ ペットの示す無条件の愛情を受け止める気持ち。

問七 — 線部②「人間関係に及ぼす効果」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「人間関係に及ぼす効果」として、動物介在療法を「治療」に用いた場合の効果として述べられていることのうちの三つを、本文中の語句を用いて答えなさい。

(2) これらの効果を引き出すために、アニマル・セラピーに関わる人が常に気を配っていなければならないことは何ですか。本文中から七字でぬき出しなさい。

問八 — 線部③「これらの効果」を、「これら」の指す内容を明らかにして、本文中の語句を用いて二十字以内で答えなさい。

問九 — 線部④「動物介在療法」によって、小児科の医療現場ではどんなことが発見できるのですか。それがわかる最適な一文の初めの五字を答えなさい。

問十 — 線部⑤「予防」とありますが、病気を予防する上でアニマル・セラピーが効果的に働く理由を述べている最適な一文の初めの五字を答えなさい。

問十一 — 線部⑥「このようなペットに対する考え方」とはどんな心の持ち方ですか。最適なものを次から選びなさい。

ア 「日本人」のペットの飼い主の、ペットから恩恵を得ようとするばかりで動物を思いやろうとしない心の持ち方。

イ 多くの動物には私たちの病気を診断し治療し予防する力があるので、大いに活用しようとする心の持ち方。

ウ 動物とのつきあい方をよく知らない「日本人」のペットの飼い主の、ペットを人形のように扱う心の持ち方。

エ 命ある動物を簡単に処分したり流行の品物のようにあつたりしても何とも思わないような日本人の心の持ち方。

オ 動物が私たちの心や体の健康にポジティブな効果を及ぼしてくれることに感謝しようとする心の持ち方。

問十二 — Ⅲにあてはまる言葉を本文中から五字でぬき出しなさい。

Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【前書き】両親を事故で亡くしたハニバル（九歳）は、祖父のポップと暮らしている。銃を使って狩りすることへのあこがれをふくらませたハニバルは、ある日、カラスの群れが畑を荒らしていると嘘をついた。祖父のポップは、子供に銃のような危険なものを使わせる人ではないけれども、ハニバルの嘘を見抜いた上で、銃にさわってみたいと思う男の子の気持ちは理解し、明日、銃を持ってカラスを追っ払いに行こうと言った。カラスなどいないのだから、ポップは、ハニバルが銃を使ってしまうことになるとは思ってもみなかった。

「それじゃあ、行こうか」

散弾銃は思ったより重かった。おまけに、とても持ちにくかった。祖父は私が難儀しているのに気づくと、「重いほうを左腕でかかえなさい。右腕をこう上げて、あげたところに細いほうを置いてごらん」と教えてくれた。言われたようにしてみると、たしかに歩きやすくなった。

① トウモロコシ畑が近づくにつれ、私はどきどきしてきた。とうとう、来たんだ！ カラスはどこだ？ 私は畑と空を見まわした。祖父をだます口実を考えているうちに、カラスがほんとうに畑を荒らしていると自分でも信じるようになっていた。実際、思いこみの力というのはすごいものだ。人間は、必要にせまられると、自分のついた嘘でも信じこんでしまうのだから。

祖父と私は黄色い海のようなトウモロコシ畑に入っていった。そして、うね伝いに歩いていき、向こうの端に行きつくと、

もういちどどの場所にもどった。三度めには、カラスなどどこにもいないということがはっきりわかった。畑のまわりをめぐるてみた。

とうとう、祖父が言った。

「ひと休みしようかね」

大きな日陰を作っている木を見つけて腰をおろし、祖父と私は「ミキ」にもたれた。

「がっかりしているんだらうね？」

そのとおりでしたが、私は返事をしなかった。

「どれ、よこしなさい。教えてやろう」

それから三十分ほど、祖父は散弾銃の仕組みと撃ち方を教えていねいに手ほどきしてくれた。手をそえてもらいながら、私はさまざまなものを狙って引き金をひいた。カチツ！ 弾は入っていなかったが、入っているつもりで。

やがて私はその遊びにむちゆうになり、祖父は顔に帽子をのせて眠ってしまった。

そうやって十五分ほどすぎたらうか。突然、なにかの動く気配がした。左手のほうでネズミでも走るような、カサコソという音がしたのだ。音はすぐにやみ、それっきり静かになった。ゆっくり、顔をそっちに向けてみた。なにもいない。私は凍りついたようにじっとしていた。昼まえののどかな畑で、祖父の寝息だけが聞こえる。

あつ、まただー さつきとおなじ、**I** 音がした。それでも、やはりなにも見えない。私はじっと目を凝らした。

一分ほどすぎた。と、灰色と茶色のまじった、胸だけぼうっとピンクがかかった鳥が危険は去ったと思ったのか、目の前三十フィートばかり（約九メートル）のところにある柵のそばにあらわれ、支柱にとまった。

カラスではなく、見たことのない鳥だった。私は考えた。銃を持ってポップといっしょに鳥を撃ちに来るなんて、これっさりだぞ。それなのに、ポップは寝ている。声を出したら、鳥は飛んでいってしまうだろう。

**II** はきまった。スローモーション・フィルムのように、ゆっくりと銃に手をのばし、手もとにひきよせた。祖父のベストのポケットからそうつと弾を取り出した。弾のこめ方は、祖父に教えてもらったおかげでちゃんと頭に入っていた。教わったとおりに弾をこめ、薬室をきちつと閉め、安全ソウチをはずした。やわらかい土の上にそろりそろりと腹這いになり、音をたてずに銃を持ちあげると、手ごろな石ころに銃身をのせた。

その後がむつかしかった。いよいよその時が来たのだ。銃身を押したり、ひいたり、上げてみたり、下げてみたりしたあげく、ようやく銃身のエンチヨウセン上に鳥が見え、頭にびたりと照準が合った。胸の奥まで息を吸いこみ、ゆっくり吐きだした。突然、なにに驚いたのか、鳥は向きを変えて私を見た。同時にものすごい爆発音がとどろいた。衝撃で体が後ろに跳ねとび、鋭い痛みが肩を走った。祖父がとびおき、立ちあがった。

「ハニバル！ どうした？ けがをしたのか？」

一瞬、私はなにがなんだかわからず、煙の出ている銃口と三十フィート先の柵の支柱をかわるがわる眺めた。鳥はいなくなっていた。勝利感が体じゅうにひろがり、頭がくらくらした。

「やった！ ポップ！ 撃ったんだ、鳥だよ！」

祖父は口もきけなかった。立たせてもらい、服のほこりを払ってもらうのももどかしく、私は仕留めた獲物を見に走った。祖父は銃の薬莖を取りのぞくと、無言でついてきた。私はあたりを探しまわり、それから、ぎくつとして立ちどまった。足もとに美しい羽のかたまりがあった！ ぐんにやりとなった鳥の死骸が。体長は二十五センチくらい。くちばしがほっそりとして、黒っぽい尾羽の先が白い。

ひざをついて、両手で持ちあげてみた。長い首がぐんとタレ、温かいものが指の間をしたり落ちた。私は祖父を見上げた。得意顔で笑ってみせるつもりが、笑うどころか、吐き気がした。

祖父は静かに立っていた。

「ナゲキバトだよ。近くに巣があるんだらう」

祖父の言ったとおりに、茂みの陰に巣があり、腹をすかせたヒナが二羽、くるったように啼いていた。巣はうまく隠してあったが、どれほどカムフラージュしようが、あんなに啼きたてては、巣のありかを教えているのとおなじだった。

どちらのヒナもやわらかい羽毛が生えはじめていて、そばに寄っても怖がらない。人間は怖いものだということはまだ知らないのだろう。手をのばすと、体の大きいほうが胸をふくらませ、突っこうとした。小さいながらも自分の巣ときょうだいを守ろうとする闘志は見上げたものだった。

「さわるんじゃない、ハニバル」祖父の声がした。「一羽は生き残れるだろう。だが、父親鳥だけで二羽を育てるのはむりだ」

私は胸に焼け火箸を突っこまれたような気がした。そうか、ぼくは母さん鳥を殺したんだ！

③「どっちにするか、きめなさい」

私の肩に手を置いて、祖父が言った。なにをきめなさいと言われたのか、私には理解できた。なんどのつびきならない立場に置かれてしまったものだろう。私は茫然とした。祖父は、一羽を生かすためにはもう一羽を殺すしかない、と言ったのだ。父親鳥には、自分だけで二羽とも育てる力はない。

私はのろのろと巣のそばにしゃがんだ。それから、<sup>④</sup>とほうにくれて祖父を見上げた。祖父は手を出さず、だまって見ている。私の目に涙があふれた。<sup>⑤</sup>一羽を取りあげ、すすり泣きながらささやきかけた。自分のしようとしていたことがたまたまなく悲しかった。

涙でよごれた顔を祖父に向けると、私は手に持ったヒナを見せた。

「こっちにする」

祖父が手伝ってくれないのはわかっていた。手伝ってもらわなければならないことも、わかっていた。祖父は、痛みをともわない手早いやり方を教えてくれた。

私は教えられたとおりにした。ふと見ると、祖父が母鳥の死骸を持っていた。

「家に持って帰りたいわけじゃなからう？」

「持って帰りたくない」すると、また涙が出た。「赤ん坊鳥といっしょに、ここに埋めてやるよ」

祖父と私は巣のそばの地面を浅く掘り、鳥の母子をならべて寝かせた。手についた母鳥の血は、こすっても取れなかった。祖父はなにも言わなかった。<sup>⑥</sup>無言の教えは痛いほど胸にしみとおりに、それ以来、けっして忘れたことがない。

すべてが終わると、祖父は銃をかつぎ、私の肩を抱いて、家へともどりはじめた。連れ合いをなくした父親鳥の悲しそうな啼き声がいっまでも聞こえていた。

(ラリー・バークダル著 片岡しのぶ訳「ナゲキバト」より)

※ 問題作成の都合上、本文を一部省略しています。

問一 —— 線部ア、エのカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 —— 線部オ「ような」と異なる働きをしている「ような・ように」を次から一つ選びなさい。

ア 私は黄色い海のようなトウモロコシ畑に入った。

イ 私は凍りついたようにじっとしていた。

ウ スローモーション・フィルムのようにゆっくりと手をのばした。

エ 言われたようにしてみると、確かに歩きやすかった。

オ 二羽のヒナが、くるったように啼いていた。

問三 —— 線部①「トウモロコシ畑が」ときどきしてきた」とありますが、このときの心情の説明として最適なものを次から選びなさい。

ア 銃を使った狩りができる時が近づいていることへの期待と緊張。

イ 嘘をついていることを祖父にさとられるのではないかと不安。

ウ 祖父を上手にごまかす口実が全く思いうかばないことへのあせり。

エ 自分の嘘をすっかり信じこんでしまっている祖父へのすまなさ。

オ 嘘を真実であるかのように思いこんでしまっている自分への驚き。

問四 I にあてはまる最適な言葉を次から選びなさい。

- ア 鳥がはばたくような
- イ 草のこすれるような
- ウ 石が転がるような
- エ 波がよせるような
- オ 強風がふき過ぎるような

問五 II に体の一部を表す言葉をあてはめて、「決意した」という意味の慣用句を完成させなさい。

問六 線部②「祖父がとびおき、立ちあがった」とありますが、事態を理解した祖父のショックが最も強く表れている一文の初めの五字を答えなさい。

問七 線部③「どっちにするか、きめなさい」という祖父の言葉を聞き、ハニバルはどんなことを理解したのですか。本文中の語句を用いて、五十字以上七十字以内で答えなさい。

問八 線部④「とほうにくれて」の意味として最適なものを次から選びなさい。

- ア つらさがこみあげてきて。
- イ どうすればよいのかわからず、困り果てて。
- ウ 次第に日が暮れていく中で。
- エ 力を貸してほしいとすがるような様子で。
- オ 涙で目がかすんでしまって。

問九 線部⑤「一羽を取りあげ、すすり泣きながらささやきかけた」とありますが、ハニバルはどんなことをささやきかけたのだと思いますか。あなたの考えを二十字以上四十字以内で答えなさい。(二文以上になってもかまいません。)

問十 線部⑥「無言の教え」とありますが、祖父は何も語らず見守ることを通してどんなことをハニバルに教えたのですか。不適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア 人間が他の生き物の命をむやみにうばうことのむごさ。
- イ 自分がしたことの責任を自分でとることの意味と重さ。
- ウ 命のかけがえのなさや命へのいたわりの心の大切さ。
- エ 興味本位の行動でおかしてしまった過ちの報いの重さ。
- オ 予想不可能で避けられない出来事に立ち向かう勇氣。